

皇太子殿下啓に寄せて

「皇室の新美南吉」

安城市長 神谷 学



演舞を終えた安城西中学校「郷土芸能研究会」の生徒達にお声をかけられる皇太子さま

八月初旬、皇太子さまが本市にご来訪された際、私は昼食と三河万歳の鑑賞（かんしょう）のお供をさせていただきました。昼食時の懇談（こんだん）は本市の特産品が主な話題だったのですが、皇太子さまが突然「安城の新美南吉」をお尋ねになりました。意外な話の急転に、驚いた私は「南吉と安城との関わりをなぜご存知でしたか」と、逆にお聞きしてしまいました。

皇后さまが昔から新美南吉をお好きで、子守りの際によく南吉童話を読み聞かせてくださったと、皇太子さまはお答えになりました。よ

って南吉の生涯もご存知で、ご自身も娘の愛子さまに読み聞かせをされたそうです。わが家の全員が新美南吉のファンですと明かされました。皇后さまが南吉童話を愛読されているお話は知っていました、が、ご一家お揃

いで「安城の新美南吉」をもご理解くださったって、いたことに感激しました。

私からは、新美南吉生誕百年を機に始めた「R安城駅周辺での「南吉童話のまちづくり」や「新美南吉

絵本大賞」など、これまでの本市における新美南吉の顕彰活動について紹介させていただきました。皇太子さまは私の話を大変興味深げにお聞き下さり、会話はとても弾みました。

昼食後、皇太子さまには歴史博物館で三河万歳を鑑賞していただきました。まずは安城西中学校生徒による万歳が演じられ、次に三河万歳保存会による円熟（えんじゅく）の芸が披露されました。公演終了後、皇太子さまは演者全員にお声をかけられ、また会場に駆けつけてくれた安城東部小学校と丈山小学校の万歳クラブ員にも、丁寧にお声をかけてくださいました。そんな皇太子さまの横顔から、思いやりに満ちた細やかな気配りをされるお人柄が偲（おも）ばれました。



大変ご熱心に三河万歳を鑑賞されました

日本の精神文化を次代に引き継ぐことは大切なことですが、姿や形だけではなく、その心まで伝えることはなかなか難しいかと思われま

す。日本国の象徴となられる皇太子さまの情操教育に南吉の童話が用いられ、皇室の精神文化継承（けいしょう）のお役に立っているとするなら、新美南吉ゆかりの地の一人として、大変に光栄なことと感じました。

私たちの地域は、産業や経済の活力が高いという印象からか、ともすると「文化不毛（ふもう）の地」と揶揄（やゆ）されることがあります。しかし、決して文化的な豊かさに欠けている訳ではなく、経済繁栄（はんえい）の陰になり、文化的な側面が目立たないのではないかと考えます。

十月下旬より、愛知県内で国民文化祭が開催されます。本市も、この地域ゆかりの文化を紹介する予定でいます。また現在建設中のアンフォーレが、新たな地域文化の拠点となるよう準備を進めています。「南吉が青春を過ごしたまち」にふさわしい図書館の開館を、楽しみにお待ちしております。

わが家の全員が

新美南吉のファンです

